義務化へ備えを

建築物石綿含有建材調査者講習

建災防県支部

建設業労働災害防止協会県支部（藤田護支部長）は21日、鹿児島市の県建設センターで建築物石綿含有建材一般調査者講習を開いた。関係法の改正に伴う2021年度からの新規講習で、27人が受講。必要な基礎知識や手順、留意点などを学んだ。きょう22日まで、2日間の日程で行われる。

石綿予防規則の改正を受け、23年10月から建築物等の解体・改修作業で石綿の事前調査を行う際は、この講習を修了した者による実施が義務付けられる。受講できるのは、石綿作業主任者技能講習の修了者（一部カリキュラム免除）や所定の実務経験を有する者で、2日間（計11時間）の講義と修了考査（1時間30分）に合格することで有資格者となる。

今回の講師は、同支部事務局長の堤博志氏と委嘱講師の海老沢瑞氏（海老沢建設）が務め、現場で必要な基礎知識や建築図面調査のポイントなどを解説。「石綿含有建材の種類は多岐にわたるため、その特性をしっかり把握しておく必要がある」「報告書は、書面調査や現地調査の結果を踏まえて作成し、石綿が存在しなかった場合でも提出しなければならない」とした。

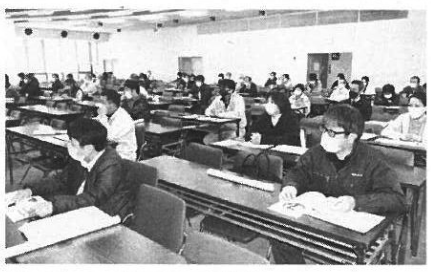
2日目の講師は山本博之氏（同支部委嘱）が担当し、現地調査の手順や留意点などを説明する。

21年度の講習は残り1回。次回は3月17、18日に同会場で予定している。

現場での留意点等に聞き入る受講者＝鹿児島市の県建設センター

建災防、無災害運動月間説明会

鹿児島分会



建設業労働災害防止協会県支部鹿児島分会（谷口明広分会長）は18日、鹿児島市の県建設センターで建設業無災害運動月間説明会を開いた＝**写真**＝。会員事業所の代表者や安全管理責任者など約60人が参加。三大災害の発生事例等を踏まえ、現場で求められる安全対策や留意点を確認した。

講師は、鹿児島労働基準監督署の丸田英紀安全衛生課長が務め、県内の労災発生状況や建設現場での事例等を解説。墜落・転落をはじめとした三大災害の発生要因に触れ、「リスクアセスメントと併せて大事なのは、個々の安全意識と危険予知能力の向上。現場の不備は見過ごすことなく、おかしいところは指摘し合える〝安全装置〟としての役割を果たしてほしい」と強調した。

法改正を踏まえた内容では、1月から義務化されたフルハーネス型墜落制止用器具の適切な使用や改正石綿障害予防規則などのポイントも説明し、対応を求めた。

谷口分会長（丸福建設）は、「工期がひっ迫する年度末は、連絡調整や作業指示が行き届かなくなりやすい時期。徹底した安全会議やリスクアセスメントの実施に努め、元・下請け一体となった対策を講じてほしい」と促した。

谷山分会

建設業労働災害防止協会県支部谷山分会（森田誠分会長）は17日、鹿児島市のビエント（旧凌雲閣）で開いた＝**写真**＝。会員事業所の代表者や安全管理責任者など約40人が参加。三大災害の事例や発生要因などを共有し、対策強化を図った。

講話では、鹿児島労働基準監督署の丸田英紀安全衛生課長が三大災害の発生事例やその要因、防止策などを説明。「建設業では依然として墜落・転落災害が最多（2021年33％）となっているが、重機やクレーン等による挟まれ・巻き込まれ（同12％）が多いのも見過ごせない」とし、「KY活動も形骸化させることなく、現場には〝作業効率よりも安全対策〟の視点で指導してほしい」と促した。

年度末の繁忙期に向け、吉永浩労務委員長（吉永土木）は「コロナ禍で現場もあわただしくなる時期。いま一度、安全対策の重要性を理解し、実践的な活動でゼロ災を目指そう」と呼び掛けた。

新たな視点で九州観察

技術士会県支部が講演会

日本技術士会九州本部県支部（井内祥人支部長）は19日、鹿児島市のかごしま県民交流センターでCPD講演会を開いた。会員内外から約40人が参加。九州の自然地形などを俯瞰写真で観察し、地質構造やそこに生まれたストーリーなどを新たな視点から考えた。

今回で32回目となった定例の講演会。佐賀大学の岩尾雄四郎名誉教授（理学博士、技術士・応用理学）が講師を務め、「トンビの視た九州の大地とヒトの活動」をテーマに話した。

岩尾氏は、自ら操縦したモーターグライダー（モグラ）で高度1000～3000mから九州各域を撮影した写真を紹介。〝モグラの眼〟と称して桜島などの火山や断層、自然が生み出した石炭や温泉などの恵みなどを分析し、「俯瞰写真で観察することによって、そこにどんなストーリーがあったのか考察できる。地形や地質構造など、立体地政学として九州を新たな視点で見る材料にもなる」と伝えた。

このほか、第一工科大学工学部建築デザイン学科の堀口譲司教授が「建築とは何か～その存在意義と史的原型を探る～」と題して講話。始原からの時代背景を踏まえて、近代建築が発展してきた経緯やその存在意義などに触れた。

井内支部長（中央テクノ）は「多岐にわたる講演で、県外からの問い合わせも増えている。今後も内容を充実させ、技術士の資質向上につなげていきたい」と話した。

俯瞰写真の紹介に聞き入る参加者＝鹿児島市のかごしま県民交流センター

ICT土工技術講習

施工管理の技術習得

県建設技術C

県建設技術センター（中迫隆義理事長）は18日、「2021年度ICT土工に関する技術講習会」を鹿児島市の同センターと受講者をオンライン方式で結びながら開催した。参加者は県と各自体の技術職員ら約20人。発注者側の監督員に必要とされる施工管理や検査に関する技術習得を図った。

国土交通省のICT活用工事の監督・検査等について、九州地方整備局企画部の担当者が解説。働き方改革や生産性の向上に向けて、「活用工事の拡大は欠かせない」と解説し「そのためにも、県を含め各自治体への普及促進を図る必要がある」と話した。

また、土工現場紹介は、南生建設工事本部の石川誠さんが、南九州西回り自動車道で担当した道路改良で活用したICT技術について説明。「3次元測量データにより、2次元では分からなかったことが事前に明らかとなることなどで、情報共有によりスムーズな施工が可能となった」と説明。さらに、ICT技術の機材・ソフトウェア紹介を久永の川畑政和氏が行った。

同センターの早田明人常務理事兼建設技術部長は「近年、県内でもICT技術を導入した建設現場も見られることを踏まえ、発注者側の監督員に必要とされる内容の研修を実施した」と話した。

鹿児島市の県建設技術センターと受講者をオンラインで結び開催した

出水市に寄付金

子供たちに役立てて

野田ブレーン21

野田ブレーン21（会長・野村憲作野村電設）は15日、出水市役所を訪れ、地域のために寄付金を贈呈した＝**写真**＝。同市では、「いずみみらい基金」に積み立て、新型コロナ対策や未来を担う子供たちのために役立てる。

野田ブレーン21は、鹿児島相互信用金庫野田支店と取引のある若手経営者らの集まりで、活動費の一部を寄付に充てた。

贈呈式には、会員役員や同支店の向井仁志支店長ら6人が出席。野村会長から椎木伸一市長に目録が手渡された。

椎木市長は「コロナの拡大で、子供たちや経済界に大きな影響を与えている。コロナ対策や経済の再興に取り組んでいきたい」と話した上で「子供たちの未来のための事業に活用していきたい」と感謝の言葉を寄せた。

野村会長は「コロナの影響で活動ができない中、会として地域のために役に立ちたいと思いが募るばかり。有効に活用してほしい」と話した。

防火パレード

来月1日、鹿屋市で

鹿屋市は3月1日～7日の春季全国火災予防運動に合わせて防火パレードを実施する。火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、火災予防に対する意識を高める。

1日は、鹿屋（鹿屋市一円・午前9時～11時）、輝北（輝北町内全域・午前8時30分～正午）、串良（串良町内一周・午前8時～10時30分）の3地区でパレードを行うほか、午前7時からは消防用サイレン一斉吹鳴も予定。また、期間中は各地で消防団と消防署による火災防ぎょ訓練を実施する。

問い合わせは、安全安心課消防防災係（☎0994・31・1124）まで。

購読料のお支払いはお手軽で便利な
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ